

教育広報 発行所 福島県教育庁県北教育事務所
 福島市杉妻町2番16号
 ☎024-521-2813
 発行者 原 孝行

県北の教育

巻頭言



「良い先生」をアンラーンする

県北教育事務所業務次長 梅宮 賢

「教職員働き方改革アクションプラン」の中に、教職員の働き方改革がなかなか進まない理由のひとつとして、「子どもたちのため」という旗印の下、無定量化に子どもたちのために働く教員が「良い教員」と思われる組織文化が醸成されていることが記されている。固定概念にとらわれず、私たちの考えてきた「良い先生」を見直す必要性を示唆している。柳川 範之氏と為末大氏による共著「Unlearn (アンラーン)-人生100年時代の新しい『学び』」では、アンラーンを「これまでに身につけた思考のくせを取り除くこと」とし、小さなアンラーンを習慣化するためのヒントとして、「今の仕事に就こうと思った理由を問い直す」とある。そこで、なぜ教師になりたかったのかを自分に問い直してみた。

ヶ月間の出来事が、私の人生においては大きな転機になった。何をすることも「たぶんできないだろう」と考えてしまう思考のくせが「がんばればできるかもしれない」に変わったのだ。何をやるにも自信がなく、転校を重ね、引っ込み思案に拍車がかかっていた私に、自信と勇気と夢を与えてくれたのは、O先生に他ならない。O先生のようにになりたい。このことが、私が教師になりたいと思ったきっかけである。O先生は、子ども一人一人のことを大切に、その特性や興味・関心をよく理解して指導してくださった。私にとって良い先生であったことは、どんなに時代が変化しようとも不変である。私たちと共に中身の濃い時間を過ごしたからこそ一人一人を深く理解し、集団をまとめ、個を伸ばしてくださった。

私は子どもの頃病弱だった。小児ぜんそくを患っていたのだが、一時病院で結核と診断されたことがあり、小学校に入学する前の数ヶ月間は、一切の運動を禁じられた。幼稚園にはほとんど登園せずに、母にバスで何度も病院に連れて行かれたことが記憶に残っている。外で遊びたい盛りに遊べなかった私は、小学校入学後も運動が嫌いで苦手だった。運動会がやってくるのが怖かった。応援に来た家族ががっかりするのではないかと思うと涙が出た。何をやるにも自分自身に自信がもてず、ちょっといやなことがあるとぜんそくの発作が出た。小学校の前半はそのように過ごし、父の仕事の関係で小学5年生の終わりに転校して、そこで出会った担任のO先生から「水泳をやってみないか」と誘われた。相変わらずスポーツコンプレックスだった私は断ろうとしたが、すでに特設水泳部員の名簿に名前が入っていた。誘われた者が入部を断るという選択肢はなかったようである。4月からトレーニングが始まり、プール開きの後は、放課後を中心にとにかく泳いだ。朝早く登校して、授業の前にも泳いだ。O先生は、「今はつらくても、乗り越えると違う自分に会えるよ」と励ましてくださった。泳ぐたびにタイムがよくなり、一緒にがんばった仲間とともに大会でよい成績を収めることができた。この数

改めて「教職員働き方改革アクションプラン」に目を通してみた。本プランの目的のひとつは、「教職員が本来行うべき業務に集中すること」である。集中できないほど増えてしまった業務を削減し、「無定量化」にならないように注意しつつ、先生方が子どもとしっかり向き合うことができる環境づくりをすることは、待ったなしの課題である。また、本プランの目標のひとつに「仕事と私生活を両立できていると感じる教職員の割合80%以上」とある。この目標に関しては、これまで「良い」としてきたことであっても聖域化せず、様々なキャリアと価値観を持つ先生方と意見を交換しながら、組織として、良い働き方を追求し、納得解を見つけていかなければならないことだと考える。

教師になりたいと思った理由を自分に問うてみて、働き方改革の視点から「良い先生」について考えてみた。教師文化の何を継承したいのか、若い先生方はどう考えるのか、何よりも子どもたちのために必要なのか…、様々なことが頭をよぎった。教師という仕事、やりがいのある魅力的な仕事として10年、20年先まで持続可能であるよう、令和の新しい教師像や学校像を再構築していく機会にしたいものである。

ふくしまを十七字で奏でよう ~届けたい 未来へつなぐ 十七字~

- 【絆部門】 最優秀賞 お父さん いっしょに食べよう オンライン
いただきます 単身の夕げに 子の笑顔
- 優秀賞 聞いててね 校歌を全部 覚えたよ
我が母校 親子で歌い 懐かしむ
- 佳作 しわくちの えがおにつられ わらいあい
孫の声 聞き取りできず 笑うだけ



<作品集>



- 【ふるさと部門】 優秀賞 こわかった ししまいいつか ぼくがやる
いつの日か 息子につなぐ 笛の音

今年度は、絆部門3,934点、ふるさと部門1,629点、合計5,563点の応募があり、過去最多の作品が集まりました。特に中学生の参加が増え、部活動や受験勉強を通して友情を育んでいる様子を上手に十七字で表現していました。たくさんのご応募ありがとうございました。

プールや海で遊んだ思い出などを題材とした明るい作品が多くなってきました。



コロナ禍が明け、みんなで会えるようになり、お互いに絆を確かめ合った作品が多かったです。

~選考委員の皆様より~

■「不祥事根絶」「学校事故・教職員事故の減少」に向けて

本年度も「不祥事根絶」「学校事故・教職員事故の減少」を重点目標に掲げ、市町村教育委員会との連携を図りながら各学校での実効ある取組をお願いしてきました。しかし、残念ながら、県北域内においても速度超過のほか交通加害等の事故報告がありました。

今回の速度超過は、最高速度を時速30km超過した重大な交通加害事故を誘発する可能性の高い危険な行為でした。「急いでいたから」「前を走っている車の流れで・・・」など、いかなる理由があっても「速度超過は故意犯」であり、決して許されるものではありません。

気ぜわしい年度末・年度初めの時期となりました。出退勤はもちろん、私用の運転でも、ゆとりをもった出発と自車の速度を意識した運転を心掛けましょう。

■セルフケアで心を元気に！

メンタルヘルス不調を未然に防ぐには、日頃からストレスに負けない心身を保つ工夫をすること、そして、ストレスに気付いたら早めに対処することが大切になります。

生活リズムは、セルフケアの基盤です。生活リズムが乱れると、体内時計の狂いが生じて自律神経機能や免疫機能に悪影響を及ぼし、ストレスに対する抵抗力を弱めます。生活リズムを保つ基本は、やはり運動、食事、睡眠の3要素がそろった規則正しい生活をする事です。是非この機会に、続けられそうな工夫を考えて取り組み始めていきましょう。

◆常勤講師・非常勤講師の情報提供のお願い

現在、次年度の各種補充の講師等が不足しており、採用可能な人材を探しています。もし、お願いできそうな方の情報がありましたら、管理職にお伝えください。

令和5年度学力向上推進研究協議会より

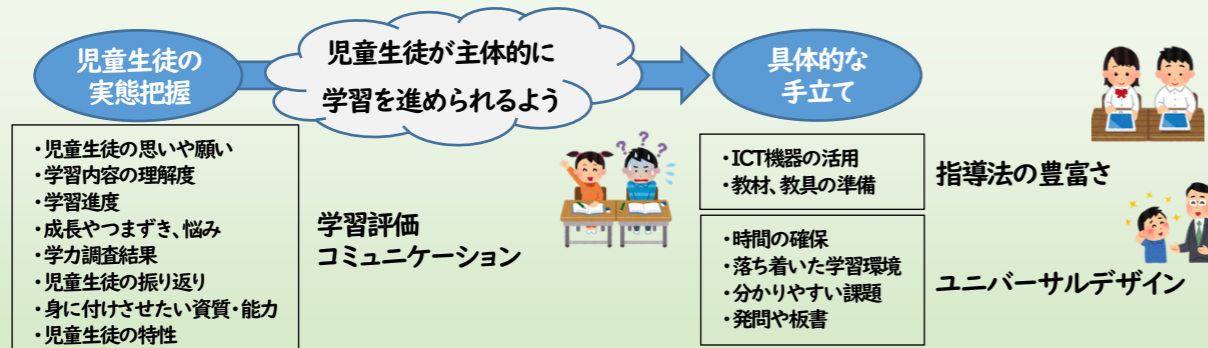
令和6年2月7日(水)に県北域内の学力向上推進研究協議会を開催しました。「ふくしま学力調査の目的と結果の活用」「学力向上に向けた授業改善」についての講義や学力向上に向けた各校の取組に関するグループ協議を行いました。講義では第7次福島県総合教育計画に基づき、「福島ならではの」教育を推進するために、「個別最適化された学び」「ICTの活用」「授業のユニバーサルデザイン化」について説明しました。参加者からは「個別最適化された学びについて整理できたので、学校に周知したい。」等の声が聞かれました。

個別最適化された学び

福島県では、全ての子どもに必要な資質・能力を育成するため、一方通行の画一的な授業から、個別最適化された学び、協働的な学び、探究的な学びへの変革を掲げています。実際、授業づくりに当たっては、「個別最適化された学び」と「協働的な学び」の要素が組み合わさり、実現されていくことが多いと思います。

個別最適な学びについては、「指導の個別化」と「学習の個性化」に整理されています。「指導の個別化」は一定の目標を全ての児童生徒が達成することを目指し、個々の児童生徒に応じて異なる方法等で学習を進めることにより、学習内容の確実な定着を図ることです。児童生徒が学習履歴(スタディ・ログ)等により自らの状態を把握しながら自分に合った学習の進め方を考えることができるよう、教師による指導の工夫をしていくことが必要です。一方、「学習の個性化」は、個々の児童生徒の興味・関心等に応じた異なる目標に向けて、学習を深め、広げることです。児童生徒がこれまでの経験を振り返ったり、これからのキャリアを見通したりしながら、自ら適切に学習課題を設定し、取り組んでいけるよう、教師による指導の工夫が求められます。

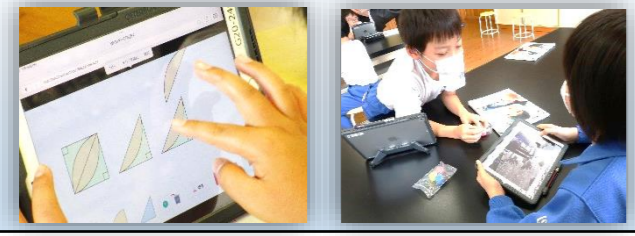
「個別最適な学び」が学習者視点から整理した概念であり、教師視点から整理した概念が「個に応じた指導」であることから、「指導の個別化」と「学習の個性化」という側面を踏まえて授業づくりを進めていきましょう。



児童生徒一人一人に応じた指導方法や学習時間、学習活動に取り組む機会の提供

ICTの活用で学習活動を豊かに

GIGAスクール構想による1人1台端末の導入により、ICTを活用した授業が多く見られるようになりました。一斉学習において挿絵や資料を提示し共有を図る場面、個別学習において自らの疑問について深く調べたり、自分に合った進度で学習したりする場面、協働学習においてプレゼンテーションを行ったり、他校とオンラインで交流したりする場面と、積極的に活用しています。今後もICTを効果的に活用して、子どもの豊かな学習活動につなげていきましょう。



ユニバーサルデザインの視点を生かした授業づくり

- 【授業のUD化】
- 視覚化＝学習内容や考え方・資料等を図解や画像などの視覚情報として示す
 - 焦点化＝学習目標や内容を絞り込んで授業展開の構造をシンプルにする
 - 共有化＝話し合い活動などで学ぶ内容を互いに共有して確実に定着させる

学習環境を整えよう!

- 黒板や黒板周りはその授業に関連するもののみ掲示する。
- 板書を最適化する。(チャートの色使いの統一、学習の流れを示すなど)
- 割割になるものをカーテンや布で覆う。
- 予定を変更する場合は必ず予告する。(変更となった活動はいつ行うのかも伝える)
- 基準が明確で分かりやすい学習ルールをつくる。

分かりやすく伝えよう!

- 「大事なことを一度だけ言います。」など、子どもの注意を引きつけてから話す。
- 指示は短く、具体的に伝える。
- 重要なことは、板書する。
- 絵や図、文字などを用いて指示内容や順序を可視化し、見通しがもてるようにする。
- 教師の視線、しぐさ、声の大きさやトーンを変化させるなど、子どもへの伝わりやすさを考える。

称賛し、認めよう!

- 得意なこと、興味・関心があることに注目する。
- よさや得意なことを生かし、人の役に立った、人に喜んでくれた等の経験ができるようにする。
- 頑張りを認め、あたりまえのことを自然に行っている子どもへの称賛を忘れない。
- 子どもや行動に応じた効果的なほめ方を探す。

※ 他人への迷惑行為などには、毅然とした態度で臨むことが大切です

令和5年度 福島県教職員研究論文表彰式

今年度、県北域内では3点の応募がありました。いずれの論文からも、先生方お一人お一人が、自校の課題をしっかりと捉え、目的意識をもって日々の教育活動に真摯に取り組まれている様子がうかがえました。受賞、応募された個人団体は次のとおりです。

【奨励賞】

◇団体研究 学習指導
伊達市立保原小学校 (代表) 校長 佐々木 透
「共に学び 共に喜び 共に高め合う 子どもの育成(3年次)」
～自ら動き出す課題を設定し、仲間と共に自分の考えを広げ深める授業づくり～

【奨励賞】

◇個人研究 学習指導(特別の教科道徳)
本宮市立岩根小学校 教諭 菅野 健彦
「互いを認め合い、自己を見つめる道徳科の授業づくり」
～3年間の積み重ねを通して～

【応募者】

◇個人研究 学習指導(国語科)
伊達市立保原小学校 教諭 我妻 佑次朗
「自分の考えを『書き表す力』の育成」
～2学年国語科の指導を通して～



演劇によるコミュニケーション能力育成事業

演劇を通して他者と対話や協働することにより、「自分の考えや思いを表現する力」「他者の考えや思いを理解する力」の育成を目指し、福島市立野田中学校が本事業のモデル校として取り組みました。

外部講師を活用した演劇による体験活動では、ジェスチャーゲーム等を取り入れた「ワークショップ体験」、演劇活動の役割分担や即興演技等の「演劇創作」を経て、台詞や表現方法を修正しながら「演劇発表」を子ども自身が行いました。

参加した子どもは、「自分の意見を積極的に話すことができた。」「コミュニケーションで気持ちが伝わるのが分かった。」等、自身の成長を実感していました。

また、講師陣の「笑顔」「価値付け」等、子どもへの接し方により、子どもの変容が見られ、活動を見学した教職員も子どものいつもと違った一面を知ることができ、授業等に生かしたいという感想をもちました。



SSR(ｽｽﾞｰﾙｽﾎｰﾙ)の実践より

子どもが抱える課題や多様なニーズに応じた支援を行うことにより、子どもの自己実現を図ることを目的としてSSRが設置され、各校の実態に応じて取組を実践しています。本事業の実践校である福島市立福島第四中学校、信陵中学校、北信中学校、松陵中学校の取組を紹介します。

- 心の居場所づくり
 - 複数教室利用、パーティション等によるプライバシー保護
 - 座席、ロッカーの固定化
 - 生徒一人一人の学習や生活のペースに合わせた日課表の作成
- 体験的な学習活動
 - 花壇づくり、野菜づくり
 - 調理実習、幼児とのふれあい
 - 作品制作、生徒作品の掲示
- 個に応じた学習
 - 各自の学習計画(時間割)作成
 - SSR専任教師や学習支援教員等による個別授業の推進
 - タブレットを利用した調べ学習やリモート学習
- 組織的対応
 - 生徒支援委員会の開催(SC、SSWとの連携)
 - 関係機関との連携、地域人材・資源の活用